

平成 30 年 11 月

会員各位

RRR 工法協会事務局

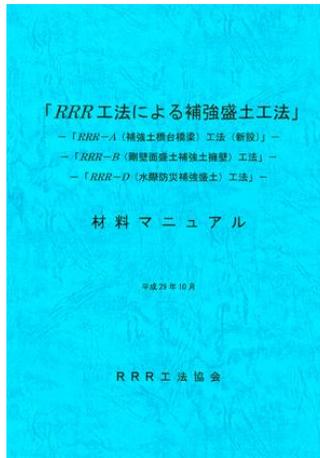
## RRR 材料マニュアル検定値の訂正とお詫び

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また平素は当協会活動にご協力頂き厚く御礼申し上げます。

さて、平成 29 年に改訂した下記材料マニュアルの、以下の 2 製品の紹介ページ内検定値に訂正箇所がございます。

製品名：ジオエース 品番 DHV-60W

製品名：J グリッド 品番 KJV-60W



ご購入いただいた方、お手元にある方は下記の正誤表をお確かめの上、ご訂正いただきますよう、お願い申し上げます。

大変ご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。

謹白

### 【正誤表】

29 頁 「5 物性表」の「設計に用いる係数」欄の下記の箇所(ジオエース、DHV-60W)

項 目	誤	正
$\alpha_i$ (一時の総合低減係数)	0.80	0.85
$\alpha_e$ (地震時の総合低減係数)	0.80	0.85

33 頁 「5 物性表」の「設計に用いる係数」欄の下記の箇所(J グリッド、KJV-60W)

項 目	誤	正
$\alpha_i$ (一時の総合低減係数)	0.80	0.85
$\alpha_e$ (地震時の総合低減係数)	0.80	0.85

## R R R 工法検定材料 (ジオテキスタイル)

- 1 会員名 会社名 旭化成アドバンス株式会社  
環境資材事業部 電話：03-5404-5612  
住所 〒105-0004 東京都港区新橋6丁目17番21号 住友不動産御成門駅前ビル8F
- 2 製品名 ジオエース 品番 DHV-60W
- 3 主材料 主材 ビニロン繊維 加工材 塩化ビニール系樹脂
- 4 構成形態 グリッド (編物)

## 5 物性表

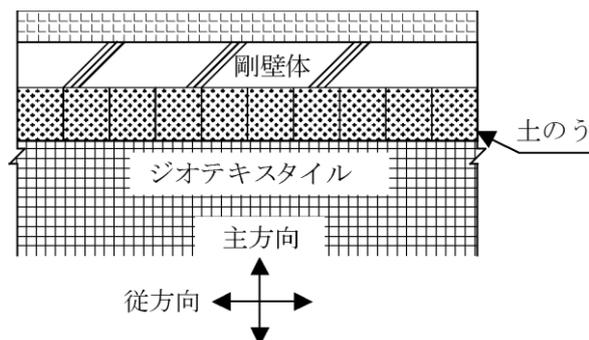
	項目	単位	検定値	備考
形態	単位面積あたりの質量	$\text{g/m}^2$	600	
	目合	$\text{mm} \times \text{mm}$	23×15	主方向糸間隔×従方向糸間隔
	主方向糸の幅	$\text{mm/本}$	7	
	製品形態	m	2×50	幅×長さ (ただし、耳部分は含まない)
設計に用いる係数	$T_{a1}$	$\text{kN/m}$	81	レベル 1 地震動に対する引張強度の特性値 $T_a (= \rho_m \cdot T_k, \rho_m = 0.8)$
	$T_{a2}$	$\text{kN/m}$	101	レベル 2 地震動に対する引張強度の特性値 $T_a (= \rho_m \cdot T_k, \rho_m = 1.0)$
	$\alpha_j$ (常時の総合低減係数)	—	0.50	$\alpha_j = \alpha_1 \times \alpha_2 \times \alpha_3$
	$\alpha_i$ (一時の総合低減係数)	—	<b>0.85</b>	$\alpha_i = \alpha_1 \times \alpha_2 \times \alpha_5$
	$\alpha_e$ (地震時の総合低減係数)	—	<b>0.85</b>	$\alpha_e = \alpha_1 \times \alpha_2 \times \alpha_4$
	$K_s$ (壁面応力計算用バネ値)	$\text{kN/m}$	980	5%ひずみ値 (空气中引張試験から算出)

## [試験者の所見]

- ①この低減係数は、メーカー保証強度 $T_a$ に対する値である。  
②R R R 工法用ジオテキスタイルとして十分な性能を有している。

## (注意事項)

①糸の主従方向について



②主方向は、製品長さ方向である。

尚、従方向の性能は主方向と同等である。

③ $K_s$ は、壁面応力を計算する際に用いるバネ値であり、変位量を求めるためのバネ値ではない。

## RRR工法検定材料（ジオテキスタイル）

- 1 会員名 会社名 株式会社クラレ 太陽工業株式会社 国土環境エンジニアリング  
 繊維資材事業部 電話：03-6701-1373 ガンパニー 電話：03-3714-3361  
 住所 〒100-8115 〒154-0001  
 東京都千代田区大手町1-1-3 東京都世田谷区池尻2-33-16
- 2 製品名 J グリッド 品番 KJV-60W
- 3 主材料 主材 ビニロン繊維 加工材 塩化ビニール系樹脂
- 4 構成形態 グリッド（編物）

## 5 物性表

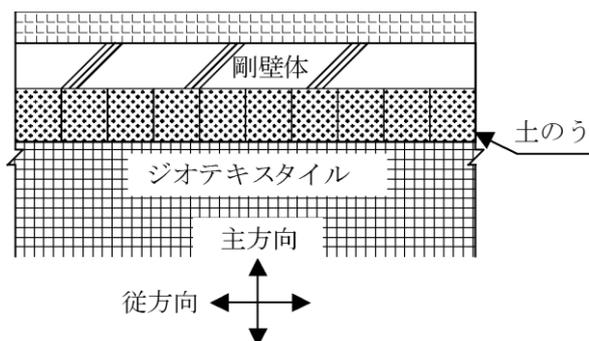
	項 目	単 位	検定値	備 考
形 態	単位面積あたりの質量	$\text{g/m}^2$	600	
	目 合	$\text{mm} \times \text{mm}$	23×15	主方向糸間隔×従方向糸間隔
	主方向糸の幅	$\text{mm}/\text{本}$	7	
	製品形態	m	2×50	幅×長さ（ただし、耳部分は含まない）
設 計 に 用 いる 係 数	$T_{a1}$	$\text{kN/m}$	81	レベル 1 地震動に対する引張強度の特性値 $T_a (= \rho_m \cdot T_k, \rho_m = 0.8)$
	$T_{a2}$	$\text{kN/m}$	101	レベル 2 地震動に対する引張強度の特性値 $T_a (= \rho_m \cdot T_k, \rho_m = 1.0)$
	$\alpha_j$ （常時の総合低減係数）	—	0.50	$\alpha_j = \alpha_1 \times \alpha_2 \times \alpha_3$
	$\alpha_i$ （一時の総合低減係数）	—	<b>0.85</b>	$\alpha_i = \alpha_1 \times \alpha_2 \times \alpha_5$
	$\alpha_e$ （地震時の総合低減係数）	—	<b>0.85</b>	$\alpha_e = \alpha_1 \times \alpha_2 \times \alpha_4$
	$K_s$ （壁面応力計算用バネ値）	$\text{kN/m}$	980	5%ひずみ値（空气中引張試験から算出）

## [試験者の所見]

- ①この低減係数は、メーカー保証強度 $T_a$ に対する値である。  
 ②RRR工法用ジオテキスタイルとして十分な性能を有している。

## (注意事項)

①糸の主従方向について



②主方向は、製品長さ方向である。

尚、従方向の性能は主方向と同等である。

③ $K_s$ は、壁面応力を計算する際に用いるバネ値であり、変位量を求めるためのバネ値ではない。